

皇學館CLL
16

農業の魅力発見! 南紀みかん援農隊プロジェクト

やってみよう! 援農活動

この活動はみかん農家さんへ援農活動をし、現在の課題を関係者の方々と洗い出して解決する方法を考えていく活動です。園地での活動だけでなくミカンを使った商品の考案と販売や、ミカン自体のPRと販売をする活動も行っています。

* TEAM DATA *

メンバー数 : 16名

活動場所 : 東紀州地域
(熊野市および御浜町)

実施主体 : 三重県農林水産部担い手支援課

担当教員 : 千田 良仁 (現代日本社会学部)

活動年度 : R01, R02, R03, R04

- こんな人におすすめ!

- ・体を動かすことが好きな人
- ・人とかかわるのが好きな人

月別活動

(8月) zoomミーティング

(9月) zoomミーティング

(10~11月) 援農活動



1年の活動まとめ・考察 (成果と課題)

今年は、去年と比べて活動の数を増やすことができ多くのメンバーが参加してくれました。複数の園地での作業だけでなくJAのミカン出荷場の見学をすることができました。これによりミカンがどのように出荷されているのかを知ることができました。イベントでのミカンの販売もおこなっており、500kg以上も売り上げることができました。安くくて甘くておいしいという評価ももらうことができました。さらに、ミカンには等級があり厳しい検査をくぐり抜けたミカンがもらえる評価があると学ぶことができました。地域の方々と活動を通しての交流もすることができました。農家さんの現状では、高齢化やなり手不足により人手が足りていないのと肥料の高騰による影響が大きいことが分かりました。肥料の高騰の対応は私たちの活動だけでは難しい問題ですが、人手不足の解消に関しては少しでも力になれたかと思えます。

課題は、今年はミカンを使った魅力的な商品の開発ができなかったので、来年度では商品開発にも力を入れたいと思います。メンバーそれぞれの都合があるのでなかなかまとまった活動ができず、関係者の方にもかなりの負担になってしまったことです。さらにコロナの影響により前半の活動はかなりの制限を受けてしまいました。そのほかにも学年の違いなどでメンバーそれぞれの交流が少ないことも課題だろう。来年度からは、メンバーそれぞれのzoom会議への積極的な参加などができるようにしていきたい。

活動を通して学んだこと

普段テレビなどで見ている農業との違い自分の目で見た農家さんとみかんの現状を知ることができました。

実施主体からのコメント

三重県農林水産部担い手支援課
ご担当者様

作業のお手伝いやアイデア出しなどすべての活動に積極的に取り組んでいただきました。学生目線からの意見やアイデアも大変参考になりました。引き続きよろしくお願いたします。



担当教員より

現代日本社会学部 千田 良仁

プロジェクト発足時から参加している4年生メンバーが後輩に引き継ぐために、積極的に活動を続けてくれました。受け入れ農家さんとの交流やアイデア・ワークショップ等から、農作業やみかん農業の現状の知識だけでなく、現場の課題や考えについて生の声を聞くことで地域との関係を築き、地域の課題を実感することができました。引き続き学生目線での様々な提案を地域に投げかけてほしいと思います。



成果物 / 制作物

